

資料《01》

2018（平成30）年03月26日（月）、19.00—20：45／農事組合法人ファーム開出今／開出今会館

なぜ“”いのちはぐくむ農法”でがんばってきたのか
なぜ農事組合法人ファーム開出今の皆さんこの農法を引き継いでもらいたいのか
—農事組合法人ファーム開出今の皆さんに—

「なぜ“”いのちはぐくむ農法”でがんばってきたのか」ということを開出今の皆さんにお話しすることは、同時に、「なぜ農事組合法人ファーム開出今の皆さんにこの農法を引き継いでもらいたいのか」についてお話しすることとほとんど同じことを意味しています。

1. はじめに

話し合いは2005（平成17）年12月から始まった（24ページ、『博士たちのエコライス—いのちはぐくむ農法で米作り—』サンライズ社、2015年07月、のページナンバーです。以下同様）。契約も2005（平成17）年12月に、2006年06月を始期とする10年間の契約として結ばれました。したがって、現在はずでに契約期間をオーバーして3年目を迎えているということになります。

2006年 秋口より圃場整備の実施

そして2007（平成19）年に“いのちはぐくむ農法”に基づく稲作に着手
12年目を迎えています。41ページの表4

2008年

2009年

2010年

2011年 4俵以下に落ち込む（やめるべきか、改革すべき技術があるか）

2012年 マルチ田植えを導入

2013年

2014年 その後6～7俵で推移

2015年 07月30日、『博士たちのエコライス—いのちはぐくむ農法で米作り—』を出版
10月14日、エフエム滋賀に出演

2016年 辻清和さんにSOS

2017年

2018年

2. 環境保全型農業の今

新聞切り抜き記事 N2018.02月13日「環境こだわり農産物 オーガニックへ深化」

フランス、ドイツではどうか

GAPとは何か

GAPとは、Good Agricultural Practice（適正農業規範、現在の農林水産省の統一呼称は農業生産工程管理）。「農業において、食品安全、環境保全、労働安全、人権、農業経営管理等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取り組み」と定義されている。

3. “博士たちのエコライス”のビジネスモデル

付属資料「“博士たちのエコライス”から皆さんへの《メッセージ》」参照

4. 環境保全型農業の行政課題は何か

- (1) まずは試験研究、技術指導体制の確立、強化
 - ・滋賀県は「環境こだわり」から「オーガニック」への進化を宣言。2019年から水稲での有機栽培面積「日本一」を目指す。2023年で500ha、2028年で1000ha。N18.02.13「環境こだわり農産物 オーガニックへ深化」
- (2) GAP導入への積極的な取り組み
- (3) 国の環境保全型農業直接支払の単価への上乗せ措置
- (4) 国の多面的機能直接支払の単価への上乗せ措置
- (5) 環境にやさしい機材の購入に対する補助金の交付

表1 農林水産省の他の主要施策の目標値

各指標 項目\	2016年度 実績	年度別目標			目標値 (目標年度)
		2017年	2018年	2019年	
飼料用米・米粉用米の生産量	525 012t	476 303t	566 765t	657 227t	120万t* (2037年度)
ガイドラインに即したGAP 導入産地割合	42% (目標)	51%	61%	70%	70% (23037年度)
全耕地面積に占める有機農業 の取り組み面積割合	—	0.7%	0.8%	1.0%	1.0% (2030年度)

注1) *飼料用米110万トン、米粉用米10万トン